

新デザイン機「親子イルカ」、デビュー



▲新デザインは乗ること自体を目的とするのも狙いだという。車輪格納部に描かれたくまモンもその「戦略」の一つ



3月、熊本から天草空港(五和町)に到着した新デザイン機。デザインは横須賀市のデザイナー、横田青史さんの作品を採用した。胴体に描かれた親イルカは愛称は「みぞか」(=天草弁でかわいい)、2つのエンジン部分の子イルカは「かい」くんと「はる」ちゃん(=快晴)。愛称も670通あった応募の中から決めている

天草エアライン

天草エアライン(天草市五和町)の保有機「ダッシュ8」(39人乗り)の新デザイン機が、このほど運航を始めた。00年3月の就航から13年、今後の利用者増に向けた弾みとなるか、期待されそうだ。新デザインは、同社非常勤取締役で天草出身の放送作家、小山薫堂氏が企画するBSテレビ番組で公募。集まった269作品の中から初代デザイナーに続き、天草らしい同社のイメージとして定着しているというイルカをモチーフとした作品が選ばれた。本運航前に限定20人、2万5千円で販売したプレミアムフライトは発売から数十分で売り切れるなど、再スタートは上々の滑り出しとなったようだ。

五島・福江―天草空港間に チャーター便を運航 オリエンタルエアブリッジ

オリエンタルエアブリッジ(略称・ORC、長崎県大村市)は3月から9月の期間、五島・福江―天草空港間のチャーター便の運航を始めた。同チャーター便はJTB(東京都品川区)が主催する羽田発着の「五島列島と長崎・天草4日間」のツアーで運航、長崎の教会群や天草の崎津集落などの世界遺産候補地を周遊、最終日には熊本城を観光し東京へ戻る。同ツアーは3、4、6、8月が1回、5、9月が2回を予定している。



▲五島福江空港―天草空港間の初運便から降り立つ乗客。所用時間は35分



▲2号橋際のシークルーズ社のマリナーに係留された「Vista Bonita」。JR九州の車両デザインを手掛けるトーンデザイン研究所の監修で、船内デザインや船体塗装などを「A列車で行こう」のイメージで統一している。JR九州では3月のダイヤ改正で「A列車」を1日2往復から3往復に増便しており、「A列車+シークルーズ効果」の拡大が期待される



◀「Vista Bonita」の客室内。座席は片側3列。濃茶でまとめられたシートは列車の座席に近い感じだ。床にも木材が使われており全体的にシックなデザインでまとめられている



天草宝島ライン 送客能力向上 新型船就航

▲3月5日、安全祈願祭の後、観光関連や地元自治体関係者などの招待客を乗せクルーズする「Vista Bonita」。後方は天草4号橋。「Vista Bonita」はスペイン語で「素晴らしい景色」の意

三角(宇城市)―松島(上天草市)―本渡(天草市)を結ぶ定期航路「天草宝島ライン」を運航するシークルーズ(上天草市松島町)は3月9日、新型船「Vista Bonita」(ビスタ・ボニータ)を就航させた。新型船は総トン数19トンで旅客定員88人。全長22.5m、全幅4.3m、最高速度は35ノット(時速約65km)。天草宝島ラインは、JR九州の観光特急「A列車で行こう」と三角港で接続、天草方面への送客の役割を担っている。3月5日、上天草市大矢野町であった安全祈願祭に出席した同市の川端祐樹市長も、「市では観光に最大の力点を置いている。新型船就航で天草はさらによくなる」と期待を示した。

◀船体上部は白、船腹は黒と赤に塗装、エンプレムも観光特急「A列車で行こう」のイメージを統一している。最高速度35ノット(時速約65km)と快速だ

